

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」平塚校			
○保護者評価実施期間	2025 年11月11日 ～ 2025年12月20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	2025年12月10日 ～ 2025年12月20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月8日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分に理解したこどもの特性等に応じた専門性のある支援の提供	発達段階や特性をアセスメントした上で家族支援（面談）を実施し、本人や保護者の方の困り感やニーズに合わせた個別支援計画を作成しております。特性等に応じた専門性のある支援の提供を心がけているため、職員の研修を日々行い、全職員で共通の認識を持ち、取り組んでおります。	今後も引き続き、定期的に家族支援（面談）を行い、困り感やニーズに合った支援の提供ができるよう取り組んでまいります。また職員全体で情報を共有し、質の高い支援の提供ができるよう取り組んでまいります。
2	家族支援の提供	定期的な家族支援（面談）、支援見学の機会を設け、フィードバックでの子育て等への助言、通所時はもちろん、LINE、メール、電話等での相談を随時受け付け、保護者の方の困り感に寄り添った支援を心がけております。また、関係機関連携で園との連携を行ったり、保護者会（パアルト・トレーニング）を開催し、保護者同士で交流したり、情報提供する機会を設ける等の支援を行ってきました。	子どもは、家族やその家庭生活から大きな影響を受けるため、「こどもまんなか」にしたご家族への支援の充実の大切さが重要と捉えております。ライフステージを通じて、ご家族をしっかりとサポートすることにより、こどもの「育ち」や「暮らし」が安定し、こどもにも良い影響を与えることが期待できると考えるため、家族全体の支援を今後も進めてまいります。
3	高い満足度	利用者の方が「安心感」をもって通所できることを第一に、その上で通所が楽しい・有意義だと思っていただけよう、支援の質の向上に向け、職員の研修も日々進めております。特に発語の支援ではことばを歌で促す支援方法の研修を事業所内で行ったり、事業所内で教材を作成したりと、支援の充実を推し進めてまいりました。	今後も引き続き、安心感を感じ、来所が楽しい・充実した支援内容の提供を目指し、職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。困り感やニーズに合わせた支援の提供、支援の質の向上を目指し、利用者本人や家族の方に今後も満足を感じていただけるよう進めていきたいと思います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	マニュアルや法体制のわかりやすい周知	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、ご契約時に周知・ご説明させていただいておりますが、周知の仕方に課題があり、説明を受けていないとの印象を持たれる保護者の方がいらっしゃいました。	事業所内にわかりやすく掲示を行ったり、会報「きらり通信」やブログ・SNSを用いた発信を行い、わかりやすい周知の仕方、繰り返し伝えていきたいと思います。
2	避難訓練等の活動実施のわかりやすい周知	非常災害の発生に備え、毎月テーマを決め、全職員で防災訓練を実施しております。防災訓練の計画・実施については、教室掲示を行い、児童の支援時に行った訓練や支援については会報「きらり通信」やブログやSNSにて様子をお伝えしておりますが、実施報告についてわかりにくいという印象を持たれる保護者の方がいらっしゃいました。	事業所内にわかりやすく掲示を行ったり、会報「きらり通信」やブログ・SNSを用いた発信を行い、わかりやすい周知の仕方、繰り返し伝えていきたいと思います。また、防災についての支援を個別・小集団で実施した際には、フィードバックでねらいや支援の成果をわかりやすく説明してまいります。
3	保護者同士の交流の機会の充実	今年度は6月と9月に保護者会・パアルト・トレーニングの会を開催し、保護者の方向士で交流したり、情報提供する機会を設ける等の支援を行いました。また、家族支援（面談）では、ごきょうだい児についての子育てのアドバイスも行いましたが、さらなる保護者の方向士の交流の機会をのぞんでいる声も聞かれました。	今後も保護者の方向士の講演会や交流の機会を企画・運営してまいりたいと思います。また、ご要望に合わせ、同時刻のご利用の保護者の方の交流の機会も状況を見ながら進めてまいりたいと思います。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室「きらり」平塚校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 30

回収数 29

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	29	0	0	0	十分スペースが確保されている。	今後も安全面に配慮しながら、活動内容や人数に応じた柔軟な環境設定をしております。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	29	0	0	0	適切だと思う。	法令で必要とされる職員の配置をしております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23	3	0	3	声が大きすぎるように感じる職員がいる。	パーティションで区切り利用者に合ったスペース作りを一人ひとりに合わせて設定しております。また、感覚過敏等への配慮についても職員間で再確認し、改善に努めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	29	0	0	0	とても良い時間で子どもは満足して喜んで通っている。	安心して過ごせる環境づくりを今後も維持・向上に努めてまいります。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29	0	0	0	子どものことをよく見て支援をしていたい	特性理解を大切に専門性を活かした支援の充実を図ってまいります。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	29	0	0	0	合っている。	公表している支援内容と実際の支援が一致するよう今後も継続的に確認して参ります。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	29	0	0	0	きちんと作成されている。	今後も保護者の方のニーズをお聞きし、個別支援計画を作成してまいります。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	29	0	0	0	それぞれの分野で支援をしていただいでいる。	今後も専門性を活かして支援内容がより伝わるよう、具体的な説明を心がけてまいります。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	29	0	0	0	されていると思う。	計画に沿った支援を今後も適切に実施してまいります。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	27	1	0	1	工夫されている。	活動プログラムについて、内容やねらいが分かるように情報発信の工夫を行ってまいります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	5	12	4	教室内でいろいろな子と交流させてもらう機会がある。	個別療育の為、外部との交流は現状実施しておりません。在籍児童の通学している学校へ関係機関連携を必要に応じて行っております。
保 護 者 へ の	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	29	0	0	0	説明を受けている。	利用開始時の説明について、引き続き丁寧でわかりやすい対応を行ってまいります。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	28	1	0	0	説明を受けている。	支援内容の説明について、保護者の理解が深まるよう努めてまいります。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	26	0	1	2	行われている。	今年度は6月と9月に保護者会やペアレント・トレーニングを実施し、保護者同士で交流したり情報共有する機会を設ける等の支援を行いました。個別療育の事業所の為、きょうだい同士で交流する支援を行っておりません。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	28	1	0	0	支援後に先生と子どものことについて話して共有している。	日々の情報共有を大切に、保護者との連携強化に努めてまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	27	1	0	1	してもらっている。	定期的に家族支援（面談）を行い、保護者の方の子育てに関するアドバイス等が行えるよう努めております。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	28	0	0	1	されている。	職員による共感的な関わりを大切にし、信頼関係の構築を継続してまいります。

説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	15	4	4	6	されている。	今年度は6月と9月に保護者会やペアレント・トレーニングを実施し、保護者同士で交流したり情報共有する機会を設ける等の支援を行いました。家族支援（面談）できょうだい児についての子育てのアドバイスも行いました。
	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	29	0	0	0	適宜対応してもらっている。	今後も相談や申し入れへの対応について、迅速かつ適切な対応を継続してまいります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28	1	0	0	きちんと配慮していただいている。	意見や情報の伝達について、今後も丁寧な対応を心がけてまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	27	0	0	2	されている。	情報発信について、今後も丁寧な対応を心がけてまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	26	1	0	2	されていると思う。	利用者の個人情報は個人ファイルに管理し施錠できる書庫で保管しております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	2	0	9	訓練をしてもらっている。	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、ご契約時周知、ご説明をさせていただいています。発生を想定した訓練を月に1回実施しております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	21	2	0	6	されている。	非常時対応や訓練について、実施状況が伝わるようにSNS発信や掲示を行っております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	28	0	0	1	行われている。	安全確保について、安全計画に基づき取り組みを継続してまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	28	0	0	1	発生したことが無い為わからない。	事故が起きた場合は、事業所から速やかに連絡や事故が発生した際の状況等について説明を行っております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	28	1	0	0	とてもリラックスした気持ちで通うことができます。	安心して通所できる環境づくりを今後も大切にしております。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	27	2	0	0	いつも楽しく通っている。	楽しく通所できるよう、支援の内容の充実に努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	28	1	0	0	毎回楽しく通っている。相談にものっていただき感謝している。	今後も事業所の支援に満足していただけるよう、より質の高い支援の提供に努めてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「きらり」平塚校		2026 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーティションで区切り、適切なスペースが確保できている。	法令を遵守したスペースを確保している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		法令で必要とされる職員の配置をしている。	職員配置の更なる充実に向けた採用、育成を検討している。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		パーティションでスペースを調節し、さらに構造化で集中できる環境づくりを行っている。	段差があるがカラーテープで注意を促したり子どもが通るときは職員が近くにいたりするようにしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		定期的に職員全員で清掃をし、換気を心がけている。	子ども達の活動に合わせた空間になるように努めていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の部屋はないが、パーティションで区切り、個別の空間をつくっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		月末会議を行い、業務改善、活動報告を行っている。	今後も定期的なミーティングを行い、職員全体で目標設定と振り返りを行っていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向けアンケートをふまえ、事業所として自己評価を行っている。	今後もし意向を把握し、業務改善に努める。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の振り返りに加え、月末会議で職員の意見把握の機会を設けている。	今後も定期的なミーティングを行い、発信、意見交換の場を設けるように努める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者による外部評価は行っていない。	今後は検討をしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内の、発達支援研究所の定期研修、初任者研修等の研修に参加をし、教室内で共有をしている。	今後も研修の機会の確保、校舎間での情報交換、研修の機会を設けるように努める。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		本人や保護者の困り感、ニーズに合わせた個別支援計画を5領域をふまえて作成している。	事業所方針に基づいた支援プログラムを作成、公表している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		個々に定期的にアセスメントを実施したうえで子どもと保護者の困り感やニーズに合わせた個別支援計画を作成している。	今後も引き続き定期にアセスメントを実施し、子どもと保護者の困り感やニーズに寄り添って個別支援計画作成に努める。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		サービス担当者会議を行い、職員全員で検討を行っている。	今後も日々の情報交換、共有を密に行うことで支援プログラムの立案をチームで行うように努める。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		全職員が必ず目にするよう、個人ファイルに貼付して確認できるようになっている。	支援計画に沿った支援内容になっているか、今後も職員全体で確認をしながら進めていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		統一のアセスメントシートを用いて定期的にあセスメントを行っている。また日々の支援に関するインフォーマルなアセスメントを職員間で共有している。	今後も引き続きアセスメントを適切に行い、ニーズや課題を丁寧に汲み取っていきけるように努める。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域とのつながりを明確化した上で、分かりやすい、具体的な支援内容を設定している。5領域の支援については、面談等でわかりやすく説明する機会を設定できるよう心がけた。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		日々の情報交換を密に行い、共通理解をすることで、支援プログラムの立案をチームで行い、共有している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		支援プログラムについては、固定化しないよう、職員間で情報交換を密に行い、日々の教材研究を行っている。支援の構造化のため、わかりやすいプログラムを提示し、利用者の様子を見ながらスモールステップで課題を進めている。	構造化を行い、今後も安心して取り組める環境設定を行っていく。内容についてレベルアップの仕方について職員間で情報交換を密に行い、魅力のある活動プログラムを行うことができるように努めていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		児童の状況やニーズ、発達段階に合わせ、状況を見ながら個別・集団の療育を組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成している。	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせて放課後等デイサービス支援計画を作成していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		前回の利用者の様子や取り組みの内容、保護者の方のお話の内容を踏まえ支援を行うことができるよう、情報共有シートや支援記録でのやり取り、職員間で打ち合わせを行っている。	今後も職員間で打ち合わせを定期的に行い、支援の内容やねらいについて確認を行っていく。記録シートを活用し、今後も職員間での情報交換が円滑に行えるようしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		シフト制の休みの為、必ずしもその日の支援前に打ち合わせる時間をとることができないものの、前日や空き時間に確認したり、社内の連絡ツールを活用して情報共有を工夫している。	今後も職員間での打ち合わせを定期的に行い、支援の振り返りや、引継ぎを行っていく。記録シートを活用し、情報の共有に努める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎回の支援の記録をとり、支援の検証・改善につなげている。	今後も日々の支援記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に努めていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月のモニタリング期間にこだわらず、状況が変化した際には支援計画の見直しを行っている。	今後も状況が変化した際には随時支援計画の見直しを行っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		「自立支援と日常生活の充実のための活動」、 「多様な遊びや体験活動」、「地域交流の活動」及び「こどもが主体的に参画できる活動」の4つの基本活動を組み合わせて支援を行っている。	画が原画のため、「地域交流の活動」については、難しい面もあるものの、利用者の方が通う学校や他事業所、相談支援事業所と情報共有を密に行い、連携を取りながら今後も支援を行っていく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自己選択・自己決定できるような場面を作り、自分の思いや考えを適切に表現できるように支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者や専門の支援職員が出席するようにしており、その内容については職員間で情報共有も行っている。	今後も様々な関係機関と連携した支援を行い、多角的な視点で支援を行っていくことができるよう、努めていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者の要望に応じ、行政の発達支援室やこどもセンター、学校への関係機関連携の実施を行っている。	今後も様々な関係機関と連携した支援を行い、多角的な視点で支援を行っていくことができるよう、努めていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		事業所内相談支援時に保護者へ学校行事、下校時刻等の確認を行っている。また、適宜関係機関連携で学校との情報交換を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		多機能型事業所のため、就学前から利用されている利用者が多い。就学前に利用されていた保育所や幼稚園、認定こども園とも情報共有を行い、相互理解を行っている。	移行支援として、今後も関係機関と支援内容等の情報共有と相互理解に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		該当者はまだないが、そのような場合には連携を密にし、情報共有を行い、移行支援を行う。	該当者はまだないが、そのような場合には移行支援を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		平塚市障がい児自立支援協議会こども部会分科会への参加し、支援についての研修や情報共有で研修を受けることができた。	今後も支援についての研修を受け、職員間で情報共有を行っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		個別療育のため、児童同士の交流は現状実施していない。在籍児童の通学している学校への関係機関連携を必要に応じて行っている。	今後も在籍児童の通学している学校への連携訪問を通し、情報交換等行っていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		平塚市自立支援協議会学齢分科会に参加し、事例検討会や研修に参加し、他事業所との情報共有も積極に行った。	今後も支援についての研修を受け、職員間で情報共有を行っていく。

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回の支援後のフィードバックの他に、家族支援を定期的に行い、児童の発達状況について、保護者との共通理解が持てるよう努めた。	今後も家族支援を定期的に行い、子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持てるよう、努めていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		今年度は「声かけ変換」「就学」の保護者会（ペアレント・トレーニング）を行い、保護者の対応力の向上を図る研修や情報提供を行った。	今後も保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行ってまいりたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に保護者に説明を行い、理解を得ている。また、教室にも常時掲示し、閲覧できるようにしている。	今後も運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っていききたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		放課後等デイサービス計画を作成する際には、面談等で困り感やニーズの聞き取りを密に行っている。	今後も放課後等デイサービス支援計画を作成する際には、面談等で困り感やニーズの聞き取りを密に行ってまいりたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から計画の同意を得られるようにしている。	今後も「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から計画の同意を得られるようにしている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に家族支援を行い、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っている。また、LINEや来所時に保護者の方からのご相談をしていただけるよう、会報（きらり通信）で呼びかけも行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		きょうだい同士で交流する支援は行っていないものの、保護者会等を開催し、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		通所時はもちろん、LINE、メール、電話等での相談を随時受け付けている。状況に応じ迅速かつ適切に対応するよう努めている。	今後も子どもや保護者からの相談や申し入れがあった場合に、迅速かつ適切に対応できるよう、職員全体で取り組んでいきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的に「きらり通信」の発行他、LINEで予定の確認を行っている。また、ブログ、SNSを活用し、活動概要等の発信を行っている。	今後も定期的に「きらり通信」を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をわかりやすく発信していく。ブログやSNSを活用し、随時情報発信を行っていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		利用者の個人情報はファイル管理した上で施錠できる書庫で保管している。SNSでの発信の際は個人情報に留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		絵カードやジェスチャーを用いて、意思の疎通や情報伝達のためのわかりやすい配慮を行っている。保護者の方には状況に応じ、口頭だけでなく、メモやプリント、メールやLINEでの配慮も行っている。	今後も障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮を行っていききたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		個別療育の事業所であるため、地域住民を招待する行事は特にないが、相談支援事業所の方や利用児童が通う園や学校の先生が支援の見学されている。	個別療育の事業所である為、地域住民を招待する行事は行っていないが今後も地域に開かれた事業所運営をめざす。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、発生を想定した訓練を月に1回実施している。	防災訓練等の情報をHPのブログや、教室会報の「きらり通信」、SNS等にも掲載し、保護者の方にもわかりやすく周知していききたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に保護者から情報をお聞きし、基本情報シートに記入いただいている。支援に入る前に情報の確認を行っている。	今後も保護者と情報交換を行い、こどもの状況を職員間で確認していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事の提供はないが、契約時に必ず聞き取り、基本情報シートに記入いただき、情報を職員間で共有している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援を行っている。	

応	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		その都度ヒヤリハット表に記入し、事業所内で対策を検討している。	今後もヒヤリハット事例を随時記録し、情報共有することで、職員の意識をさらに高めていきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会が組織化されている。全職員で研修に参加し、適切な対応が取れるようにしている。	今後も虐待を防止するため、職員の研修の機会を確保する等、適切な対応を継続していきたい。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束の基準を重要事項説明書に記載し、契約時に保護者に説明を行っている。	よりわかりやすく保護者に説明し、また職員全体で考え方や意識を共有していきたい。